

2012年 年頭ごあいさつ

セブン&アイ・ホールディングス 会長兼最高経営責任者（CEO） 鈴木敏文

明けましておめでとうございます。昨年は、東日本大震災が日本の経済・社会全体に大きな影響を及ぼすなかで、国内消費は上半期には一時「売り手市場」に転じました。しかし、全体感としては、「新しい」商品・サービスだけがお客様の支持を得られるという傾向がいつそう明確になりました。

一方、世界を俯瞰すれば、今年はユーロ問題、アメリカ大統領選等をはじめとし、大きな変化が顕在化し、さまざまな面で「不透明」感が増してきます。また国内では消費税率の引き上げが取り沙汰されていますが、日本経済全体にとっても、まず不況から脱却させ、その後税引上げを図るという手順が求められると思います。現状で税率を引き上げれば、消費の冷え込みを招くだけでなく、ひいては経済全体を停滞させ、税収の落ち込みを招くことは免れません。私たちも、政治のあり方を含め、世論の動きを真剣に見つめていく必要があります。

このような不透明な状況にあるからこそ積極的に新しいことに挑戦し、不透明感を打破する取り組みが必要です。2012年は新しいことに挑戦する努力をしている会社や部門は成長し、それができなければ落ち込むというように格差が拡大する年になるでしょう。

すでに新年の3ヶ日の商売にもその兆候が明瞭に現れています。セブン&アイグループは、2012年を「さらなる挑戦の年」と位置づけ、これまで以上に新しい提案、商品・サービスの創出に積極的に挑戦し、いつそうの成長を図っていきます。

【グループ主要事業の今年の課題】

セブン-イレブン: 従来にも増して積極的な攻勢を掛ける年と位置づけ、出店目標を1350店とします。「近くて便利」な機能に磨きをかけ、商品開発、品揃え、そして新しい接客サービスに挑戦します。

イトーヨーカドー: アリオ上田および松本の成功にみられるよう、お客様ニーズをとらえて店、売場のあり方を積極的に変え、新しい商品・サービスに挑戦します。そして確実な営業利益目標の達成を目指していきます。

そごう・西武: 百貨店の同質化体質からの脱却を図り、他にはない独自の商品・サービスによりお客様ニーズをとらえる「新しい百貨店」の創出に挑戦します。

ヨークベニマル: 昨年は、大震災により大きな被害を受けましたが、社員全員の努力がお客様からの支持をいただき、好調な業績を上げることができました。今年も被災地域をはじめとした東北地方のお客様ニーズに積極的に対応していきます。

セブン&アイ・フードシステムズ: 黒字体質の定着に向け、商品・サービスの改革に全力を傾注します。

I T サービス: 今年あらゆる業態でネット戦略の攻勢が予想されます。セブン&アイグループは、ネット事業の強化を最優先課題と位置づけ、バーチャル、リアルを融合した他にはマネのできない魅力あるサービスをお客様に提供し、ネットビジネスをリードしていきます。

(2012年1月4日 年頭朝礼あいさつ要旨)